

IV-10

神戸市における主要施設別交通発生状況について

京都大学工学部

正員

工傳

米谷榮二

K.K新日本技術コンサルタント

正員

玉井掇郎

正員

○三浦利夫

1. まえがき 街路計画および駐車場計画を合理的に立てるためには 都市を構成している種々の施設を調査分類し そのおのおのから発生する交通量を車種別・業態別に知らなければならぬ。このため本研究においては 最終的に交通発生原単位表を作成することを目的として 神戸市の都心である葺合区、生田区および兵庫区を調査対象地域にとりあげ これら3区内の施設を94箇所抽出し 各施設ごとに1日の出入自動車台数を車種別・業態別に調査し、あわせて自動車の施設に入った時間と施設から出て行く時間とを調査し、交通発生の原因が何であるか、何に依存しているのかを追求する。

2. 調査 調査は昭和39年8月4日(火)～7日(金)の4日間×実施した。調査全日とも晴れてあり調査結果の検討には天候による差および曜日による変動はないものとする。

今日の調査は都市交通に占めるウエイトの高い第3次産業関係の施設に調査の主力を置き、卸売商22箇所、小売商16箇所、専用商業施設34箇所、官公署11箇所、厚生施設5箇所および住居施設6箇所、合計94箇所を実施した。な

調査年月日	調査時間	天候	調査者
調査対象分類: 商店・住宅・学校・病院・公園・その他			

お調査に使用した用紙は図-1に示すものである。

〔調査時間 7.00 ~ 17.00 + 12時間〕

3. 調查結果

1) タフシーについて 特に発着台数の多い施設について到着台数の時間別割合を示すと図-2,3のようになる。この内訳は兵庫県庁について乗車88台降車312台、乗降車33台、乗降別不明5台 合計

438台 神戸市役所ではそれぞれ99台、292台、14台、3台で合計408台 生田区役所では18台、94台、10台、5台で合計127台 大丸神戸店1,282台、948台、95台、1台 合計2,326台 そごう神戸店130台、212台、72台、0台 合計414台 ニューポートホテル72台、147台、3台、4台 合計226台 オリエンタルホテル55台、110台、3台、7台 合計175台である。卸売商(従業員10人〜40人)にフリートのタクシーの発着は10台以下にすぎない。なお調査した94個所の総発着台数は5,828台であり 内訳は乗車2,250台、降車3,202台、乗降車306台 乗降別不明70台であった。

(1) タクシー以外の自動車について 1) の場合と同様にいくつかの調査個所での到着時間別自動車台数および駐車時間別自動車台数を示すと表-1, 2のとおりである。車種構成については大丸神戸店で35.4%が小型トラック、31.6%が小型乗用車、17.5%が軽自動車以下三輪トラック、大型トラック、大型乗用車の順である。また神戸市役所では小型乗用車50.4%、小型トラック20.2%、軽自動車15.3%、以下大型乗用車、特殊自動車、大型ト

[illegible]

圖一—調查用紙

トラック 三輪トラックの増加はしている。
 トラックターミナルの1つである日本合同トラック神戸主管営業所では 大型トラック40.3%、小型トラック28.3% 三輪トラック19.7%以下軽自動車、小型乗用車となっている。他の施設では 銀行、市場、貸ビルおよび官公署の自動車発着は多く、証券会社、繊維・衣服その他の小売商は少ない。調査の結果駐車時間の分布については 今後検討を加えたい。

4 結果の検討 今回の調査は何れも都心部で行なったが はたして地域的な交通発生の差はなかったか 現在の最寄の交通機関の存在 利用の難易がどの位影響力をもっているのかを十分に検討しなければならないであろう。

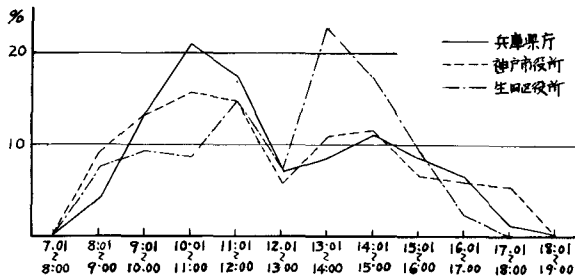


図-2 施設別タクシー到着台数の時間別割合

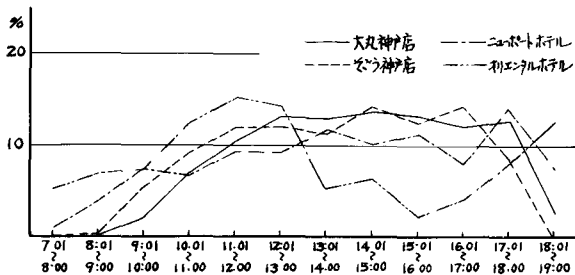


図-3 施設別タクシー到着台数の時間別割合

表-1 施設別 到着時間別自動車台数 (単位:台)

	7:01 8:00	8:01 9:00	9:01 10:00	10:01 11:00	11:01 12:00	12:01 13:00	13:01 14:00	14:01 15:00	15:01 16:00	16:01 17:00	17:01 18:00	18:01 19:00
神戸市役所	17	137	176	182	154	97	171	193	172	127	61	0
兵庫果庁	2	25	93	84	83	39	59	60	66	35	21	1
大丸神戸店	2	49	78	123	79	70	90	94	97	101	89	32
三宮ビル	0	24	83	99	35	76	52	42	55	55	40	0
新三宮ビル	5	16	19	20	24	36	20	19	8	11	9	13
合同トラック	4	14	27	36	32	22	17	21	42	37	40	25

- 原単位表の作成にあたっては
- 1) 車種分類はどの程度必要か。
 - 2) 施設の分類はどの程度がよいのか
 - 3) 交通発生は何によって規制されるか (例えば従業員数、床面積、販売額等)

- 4) 規制するものはすべての施設に同一か

- 5) 規制するものの将来値は適確に予測可能か

等について検討を加える必要がある。これらについては講義時に検討を加えたい。

表-2 施設別 駐車時間別自動車台数 (単位:台)

	1 15	16 30	31 45	46 1:00	1:01 1:15	1:16 1:30	1:31 1:45	1:46 2:00	2:01 2:15	2:16 2:30	2:31 2:45	2:46 3:00	3:01 3:15
神戸市役所	362	127	86	50	29	30	18	15	12	15	7	13	75
兵庫果庁	254	40	29	21	17	3	7	4	1	1	1	0	6
大丸神戸店	623	62	40	26	26	19	15	7	8	2	3	3	6
三宮ビル	294	80	34	17	14	8	4	3	1	2	0	2	3
新三宮ビル	131	8	4	4	4	3	0	3	1	1	0	1	1
合同トラック	107	45	24	16	6	8	4	2	4	3	3	0	14

5 必ず 今回行なった調査をさらに広範囲に行なうには ばく大な費用と労力が必要となるが、もし十分な調査がなされ最初の目的である交通発生原単位表が作成されたときには 将来の土地利用計画、経済計画とあわせて適確な交通量が予測可能となるであろう。またこのような調査とあわせてトラックターミナルの面積の問題、タクシーの乗降場の配置の問題、交通規制の問題等に改良あるいは説明がなされるものと考えられる。